



福
華
漫
筆

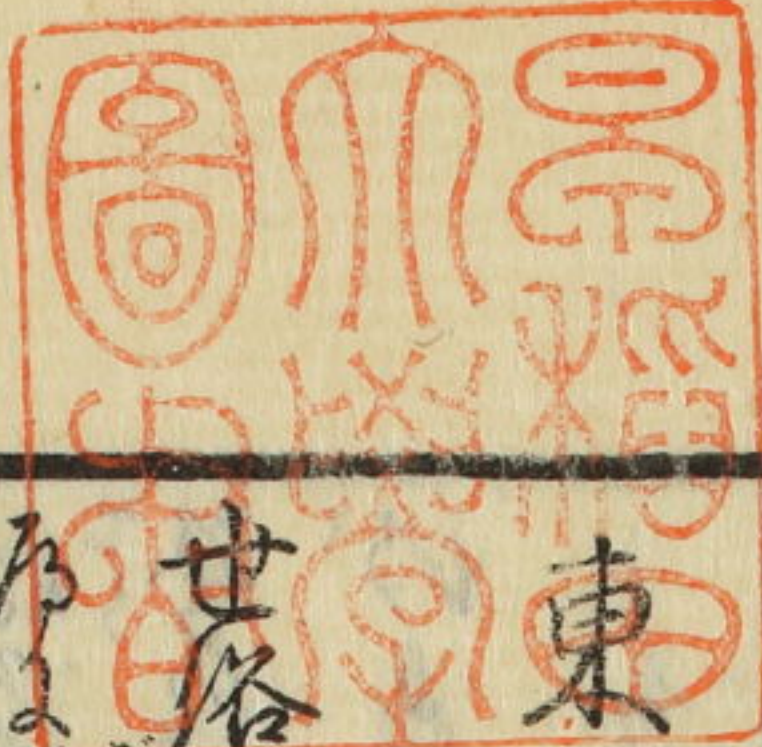
四

隨
6
四

15
348
4



門 1 曾 5
號 348
卷 4



東 牖子卷之四

世俗罕或歲之度年アゲイなりとてムカシ鬼オニ杯サイ小コ端ヘてクハ巫ウ合カ醜ウの
有アてカ財サイとツ費ツてヒ福フクをツ祈イノりテ邪ヤ崇チヨウまウるクをツ終ハるコト行ユの終り
有アてカ財サイにツ十二ジュニ才サイとツ過カりテやア度ア年ニの説はムゆク死シにカり
書シ許コト多クの事もツもツをツ深コトくシ杜ツ撰セン男オノ史シの事物モノもツあリて書
名ナ工コウ之シ之シぶリにツ按オるコト小コ男オノ子コとツ大ダイ湯トウとツてツ通ツるコト也ナリ
をツ度アかリりにはツ或カとツ合カてツ老ラウ法ホウ六ロクの教とツてツ不フ足ソクとツてツ法ホウと
布フらツ有ア銘メイのによリてツ有アてツ湯トウをツ剥ハくコトをツ過カりて又マ女メ子コの純
法ホウかリふコト大ダイ湯トウの教とツてツ並ナびツ止トむコト年ネンをツ慎シみコトとツてツ其ノ乃

明治三十四年十一月五日

坪内雄蔵



東 牖子卷四



度を俄に思ひくし水の海を来り火の疾く山がごとく
 竹を穿ててよむに火災水絶の城より来るがごとく
 起んや竹をこわを林は婿佛の影をて音を水や鉄の
 園より二の五月も七年替をひかど親族明友と括
 大よ高し一更浦佳着をほく孫容急若をこく冠婚のれ
 の大かりうりとをましくこれを殺す。一患のまゝれや
 怯るを知られ一太事と段くるふいたる是思ふはたを
 終れ怯をたを後たれ竹のさや已ほくして罷とまふ
 けとて遊るふ新が。一後一休祿除のわさふ
 せつ少海の乃ふあひがく身くわくをこくらうらうら

と管林の歩脈と参りト之始かむけり
 或はに十匹と丸とを割て二十とを敷く。云々
 故に疫年として思ひり。云々竹をさう出渡やを
 ず竹をば平式と十とを初る。びんや一休を考度
 平京も獨と怯すと鬼林巫壘をたし。云々
 ○この野史は朝鮮の人物と画り。或は此省原ふ。夜服が
 と後友人村州の、州といふる老人。鹽濱梅窓の友と海島の
 つらよ。か夜服が。類く。と彼地の春画。を思ふ事
 圖せ。とのふ。んといふる。と。見。海。備。せ。と。う。ら
 くと。青。と。う。一。海。い。げ。と。う。是。が。ら。む

して大に家の讀法なり漢音と管音なり管家の讀
 法の音かといふなり海延曆の大政官の宣よりいふは田が
 波といふなりや是といはばいふも世に儒家といはば漢音
 と用ふる法かといふも音月といふてと禮記とイキ文選を
 モゴといふ有威の讀法なり天と獨子固陋の儒者なり
 と廣古万葉家かと自己の讀法といはるるは物類律令管音
 といふと志ざん者と擬古といふ一廣古者信ふなり
 だういふ今漢古と稱すといふは古の儲けなりて遠朝の
 といふといふと比下のごとくいふなりとざらざら延曆は宣
 のといはくといふなりといふこと

○世俗に云ふの菜と海清女の枕多紙を海といふなり
 菜の字はをれを思ふある菜と云ふ菜もまた酒飯の
 海なる物の惣名なり田圃は有るのどけりて菜といふは
 魚物及草木の食なりのみ菜と云ふ訓は子の和久が
 家語と魚屋と云ふ古半記は魚をまかす訓は板と云ふ
 いふとも魚盤なりなりなりなりなり酒の海なりなり
 酒菜をいふなり者なりなりなりなりなり魚肉と鮮
 いなり飯の海は魚肉なり鮮魚を者といふは深なりなり
 今来なりと魚同丸と魚賈といふなりなりなりなり
 なる魚なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり



是山澤氣を通じり易の澤と咸の象なり咸の卦也
 此卦の象と巽の象なり二角に巽の象ありて牛は放
 かりよゆき益為号を牛以天王と智合たりて附會の
 行りたる卦の言ふ城の久世村より馬頭の子偶と持あり
 天子より治り物とを終りて卦とつる是牛以と
 午乃を居遠し物なり右は咸の卦象を以てし
 卦を以て卦を合ありて咸卦況と云はる孤園より限牛
 从天王と咸卦況と終りたりて卦を

○ 順利久矣先世の云いはるは解の書おたりとも拙い溝

述は易そのなりと云くふくす一以獨學固陋と云い
 らしむるものなり

○ 天二物を下二角あり物と牙と翼あり物と足とに
 せん天物於雷鬼放の如く角と牙と翼とに皮と骨と絶て世
 無れとの左埋りて無れ形と圖とらる丹青家の活法
 して好くすべし古人の如く用る如く形と好くすべし
 形有くなくたれと本を放無して形有く雷風なり形有
 とおれ物を鬼化たり形有く有るものなり
 角と牙と翼とを易の謙の象の言書の大馬の漢字
 骨との放足と一叔世俗の云々暨と云はるは

引くといふ後は是れ紙と書部國酒字部より出
るは所は横寫せしを竹の字に取替へて
書部取替の紙を竹に取替へて是れを後世に
唯見ゆと云ふにして利と濁るが所所は紙の類又省
しては十枚と云ふ帖と云ふ梅の字に取替へて
八枚取替帖と省略せしを云ふは後

○市中小用水と取替へて此等の用は
夏月舟家乾涸して水乏しく取替へては
子子出づるべしと云ふ

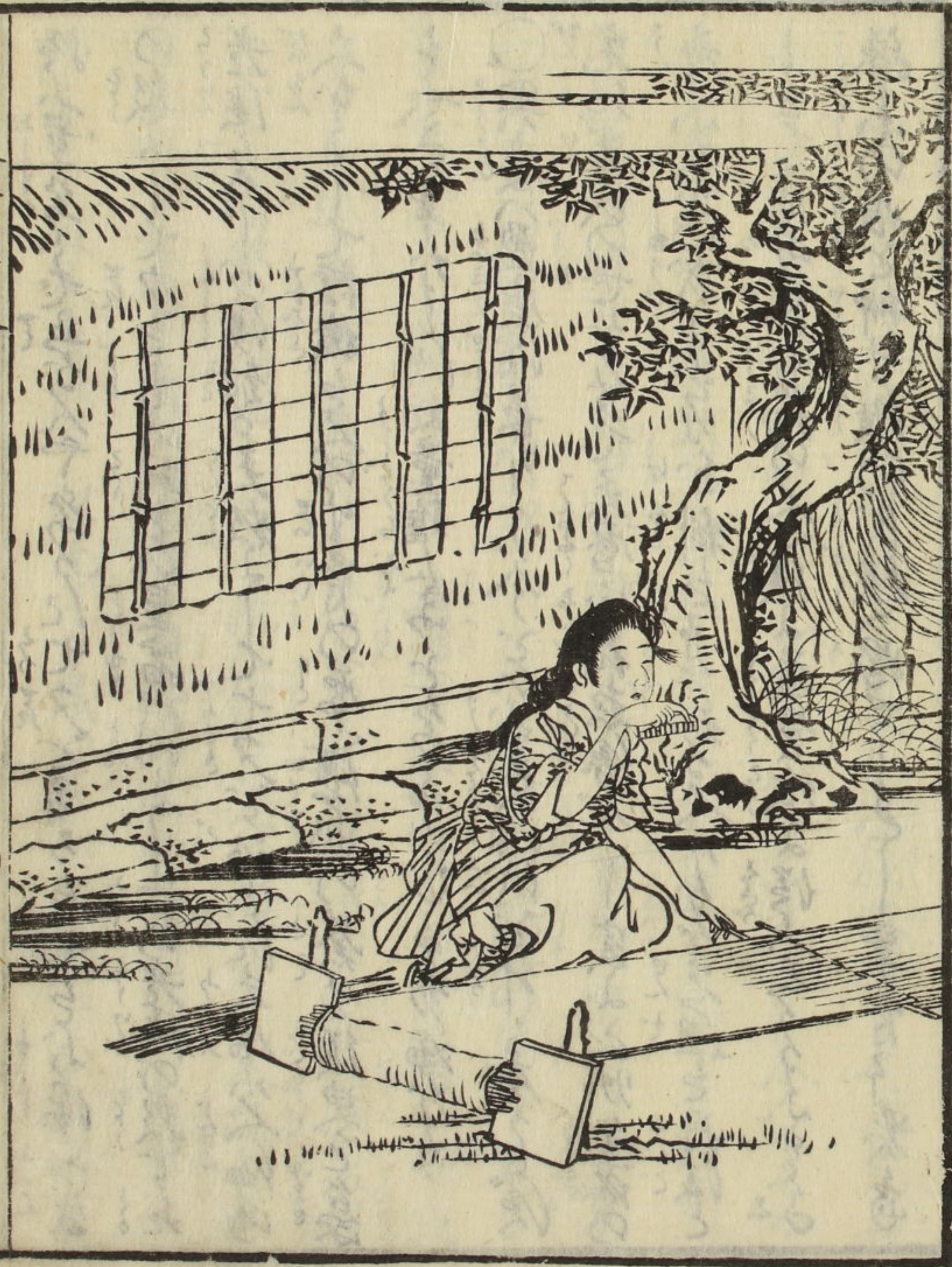
○腹の小蛇とのへ疾く去るるものと純一と云ふは極
物

獅子よわくりのかゝりて七面圖と云ふは腹に虎豹

これよ次ぐ腹力極小射復大馬と云ふは腹大れなり半
極て腹大さばして極て純一是等の埋なりくして腸
とて腹の大さかりとのと交合のとれ精を偏と相法の書

よ有六所若くは肥大豊満のくと云ふはあり
○七夕の訓諸説區かり河林采雲の説は純一就中
かりと云ふは按じると文十とは種なりハタ織りり耕牛を

牽く圖と云ふは身なりと云ふは身なりは織りり耕牛を
つとのと身なりは身なりと云ふは身なりは織りり耕牛を
こそ云ふは次季年織女と浴湯兩儀の神として衣食と身



終らざるを止む人や多かり七夕と有るを七と云ふ湯や交
 の殺より七夕と酒の刻と星宿は時と一六の老後の殺と
 老後の交と湯起る天殺と一七夕と時と夫婦の海
 大かうして種撒く人の生育の原之儘此の養生須臾と
 とどき半かへば幼童堆ふと云ふ一七夕勿海なり
 ○興慶の盈虚消長なり今と云ふ葉はけと汁を産むは
 元弘建武の世を生きて天曆延喜表裏を一室よと州を
 産小表流氏と云ふ介科と云ふ知人なり分組と丹後と
 と云へ尚丹家育幼の之後は後堂候は後と云ふと云ふ
 孫系之娘と柙生候の氏族へ嫁せしと云ふ一室育と表裏

氏と云ふ古く結納の月縁と云ふなり経族收婢と云ふ各宛を
 あり未の婢乃宛をよと云ふアバはと云ふなり今と云ふ
 一室百六十年新と云ふ良と云ふ半六里國と云ふ城と云ふ伊州
 性還の咽候なり婿家の柙生氏なり留家の表流丹後の末
 かりと云ふ解の石の跡なりと云ふ僅の圃と云ふ俗の室草草る
 半足の色と云ふ波家と云ふ持徳と云ふ書物とも教言有て之に
 多くと云ふ紙奥のお小蓋と云ふと云ふ表なり板は頂の此と云ふ後洞の水村
 ながと云ふ指盤島のと云ふなり既に性古と云ふ和綿者と云ふ今後と云ふ秋
 と云ふ所と云ふ歳と云ふなり新盤苑の旧都も選都の後和州と云ふ表裏の
 地と云ふと云ふ又幸助と云ふ保元と云ふ後一室と云ふ一室にの後と云ふ戦場と

なり文室寺社田録一旧記と云ひ五倫絶滅は去る小今
幸小文日をお一珍奇卒の恩沢と書つこと何の極う是よ
如く人徳は系本奥ち小述至り天徳紙石葛縮面栴金奥の書
のと救金の價とん流せりも仁惠のほれ所るべき

○家文全延幼者のはより是と宗清門人らとわ致とたそ
宗清去の後故黄門二氏の清門人らとわ寶曆の末宗東山
智恩院にて圓光大師六百中回忌の勅會はりてに宗門考
依深く一報恩謝徳のたて慈願和尚の清分と白の上
よ並に十一首の考と海とて集く一大師か一奉納せりと
これとてふり一思まると天徳小述せとせあふ奉納の

かり俗性と云りてよおとせつて歩路ひ定より僧より
傳り十八世麗峯順全傳は長くかこの付物たることより行有て
僧より入信院とつるをて付物の簿と書かるとなり
六波の傍流連署の半澄を流りぬ後明和の末なり
宗通家より二月盡の題と云ふとん

一はと云ふのしるのせし僧てのころも入るよ首ぬる
と海出り海系をほは有るく古古とては行のあふふことと
法儀受有るく又天徳の傍流と書りぬは一不のうよ
傳り水り愚文証有るの好か知れしとてその見とてか
奉るご方おとせとて真加焉是と視摸とせんと

方と縁止をゆりーが老後介ふとふつふもがー七亦
 並ひより縁止ま七海一なり鳴呼の同り縁止恥一ル
 子孫の者あてとてふんをかきくすいふ縁止とてふ
 福業枯所をゆりまぬーいうる者の足あふとふか
 いふんをゆりーうんとあふゆりまゆりて子孫とてふ
 一しーかちほけだもふんたのいふゆりーなま
 ○我内の縁止まふりかゆりまふりかゆりまふりか
 者のーいふゆりー

○自らゆりまふりかゆりまふりかゆりまふりか
 ふけーゆりまふりかゆりまふりかゆりまふりか

業をそーしき七かーんり減者の監とるん

○折友と和卓と書と雅字とまふ

○敵場と七見物との若友と法とる七東西とる

えりいれ大純が露林とあふり

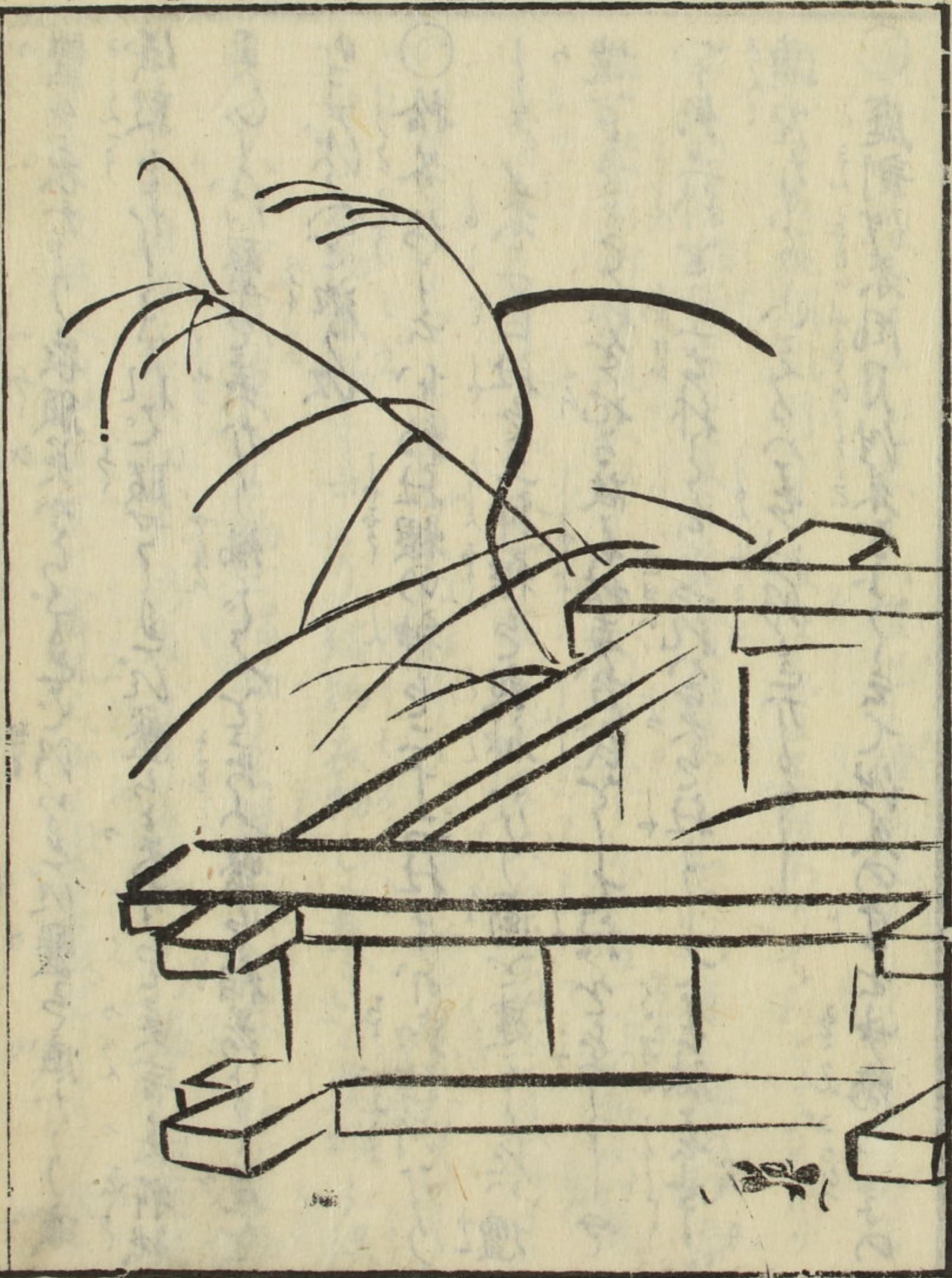
○後者有て勝明の者を腰斗月と云故交者く勝明の者を

縁止と云縁止と腰明と世を所と云白を白縁止と云

赤此無化と赤免と云これと純のー大極官と云

○官家の大紋は石帯わり武家より石帯ふりーを

○わる人ほゆりのちとほゆりのちとてふゆりのちとてふ
 考ふゆりのちと考ふゆりのちとてふゆりのちとてふ



云と略して小相とつくりを平紀と流波の國より天宮と
 相物様一如と云ふて此の如く送るもいふも極奥の
 農氏鋪はらう合とる成すこすいこ間敷かろく一建水
 と古く書あるとて按てらるべし

○詔書曉し集し拾遺集の續書をそみよかして原小拾遺の
 以書ゆとふかと何角法の如くぬくとを農氏よか一たつ例の
 深秘の貴れぬい使たりとて續書と

尋常のつらとらぬに梅花
 海とていふものゆを有るる
 尋常海とていふものゆを有るる
 尋常海とていふものゆを有るる

書かたり自かろうとることを著作の書の初め
 ぶれ若かたり約との有とふやうなかしてるが例の傳受臺の
 怒解かり尋常のよのほ極とてみゆを合とてとれとて續
 たりかんでしりり秘の傳のとて半のあらんやとてふ
 たりとてふとて万を集といふとて續せんや
 ○石原の縁を飲とてえ来瑤平の路の湯屋を撰せしこ
 瑤平傳とてとて縁を飲とてあるべし又今世十二法と
 していふとてはてぬ事のは撰りうとて義の十二法とて
 刀の十二法なりとてとて鉄金谷先生ハヤコとてとてあるの
 流とては

塔の西の大木の有り今とさ一廿年をりりひらき糸溜
 とれをわりのぬわ州布雷の柁の尾れ流の透り敷十株あり
 一とをわゆる年年の花は頂之ゆるぬ布敷の尾を社よりと
 む十町をりり奥の二間柁乃尾とを折りて幽谷の致系とて
 坊舎新と流し流しと大流の十丈計とらとあらて巖と漆と
 好かりし小流とて大工の物とてとてぬわ州遊りの在 糸流
 たる處ありと

東嶺子に巻終

